芦屋市の皆さまへ

まちづくりの政策提案集

高島りょうすけ 26歳

安心の
医療・介護

先進的な
世界一の教育

圧倒的な
子育て環境

あなたと創る芦屋の未来

目　次

プロフィール …… p.3

芦屋と私、NPO法人理事長7年間の経営

現状 …… p.7

高島の危機感、芦屋の危機、芦屋の真の実力、
あなたと創る芦屋の未来

提言 …… p.17

先輩世代と創る、現役世代と創る、未来世代と創る、
JR駅南側再開発について、対話中心のまちづくり

索引 …… p.34

芦屋を世界一のまちへ!

高校生の頃、私は芦屋市民の方々と共同でイベントを行いました。「市民力があるからこそ街が輝く」ことを教えてくれたのは芦屋の皆さまです。その後ハーバード大学在学中、大学での学びが活かされている現場を見たいと大学を休学し、世界中の都市を訪れました。各地を回りながら、芦屋の魅力を何度も再認識しました。この芦屋には、豊かな住環境、西日本で最高の財政力、そして何より芦屋を愛する市民の力があります。これは世界でどこにも負けない、芦屋ならではの魅力と可能性です。

しかし、いまの芦屋はその魅力が活かされていない。本当にもったいないんです。芦屋の活気が失われている。このままでは普通の都市になってしまうのではないか。この不安は、数字を見ても明らかです。他市に比べて、「街を支える30、40代の人口が減っている」「出生率が特に落ちている」これが芦屋の厳しい現実です。だから今こそ、市民の皆さまと市役所の間に立って、芦屋の魅力を最大限に引き出す新しいリーダーを目指したい。そう決意しました。

団塊の世代の皆さまが75歳以上になる2025年まで、もう時間がありません。市役所の政策の進め方とお金の使い方を変える、最後のチャンスなんです。

この4ヶ月、私は市民の皆さまとの対話を重視し、政治活動を行ってまいりました。対話集会で、街頭で、ネット上で……様々なお声をお聴きし、芦屋の未来を描いてきました。例えば、安心の医療・介護。圧倒的な子育て環境。そして世界一の教育。構想は絵空事ではありません。私が見てきた世界中の成功事例を参考にしながら、進めてまいります。

この政策冊子には、私自身が考える「芦屋の将来への危機感」、そして未来の芦屋のために「今後取り組むべき政策」を記しました。ぜひご覧ください。

今こそ、芦屋市の未来を一緒につくる時です。どうかあなたの力を貸してください。

プロフィール

■灘高卒業式

■ハーバード エリオット寮の食堂

高島（たかしま） りょうすけ

1997年2月生まれ（26歳）茶屋之町在住　灘中学校・高等学校卒業（生徒会長）

2015年　東京大学、ハーバード大学に入学（環境工学専攻、環境科学・公共政策副専攻）
休学中に世界中の街を訪れ、世界の研究者や議員、民間企業と議論を重ねてまちづくりを学ぶ

2016年　NPO法人留学フェローシップ理事長に就任
文部科学省、柳井正財団、江副記念リクルート財団と協働し海外留学と進路開拓を支援
県立高校国際教養科の新しいカリキュラムづくりを有識者として支援

■海外視察（オランダ）

2017年　外務省・経済産業省にてインターンシップ

2020年　ライフイズテック株式会社にて、経済産業省「未来の教室」実証事業、AI・データサイエンスの教材開発に従事

2022年　ハーバード大学を卒業。公文（くもん）教育研究会学習者アドバイザーとして全国の小中学生の学びを支援（2022年7月～2023年2月）

芦屋市での取り組み

2014年　灘高3年時に芦屋市のサマーカーニバル（市民まつり）で屋台を出店

2018年　芦屋川ロータリークラブの「芦屋エコフォーラム」で基調講演（芦屋市・芦屋市教育委員会共催）

2019年　芦屋市役所政策推進課にてインターンシップ（3ヶ月）
◆市政の現場を経験し、芦屋市の未来づくりを志す。ハーバード大学4年時に、ゼミのプロジェクトで芦屋市を舞台にした自然エネルギーを計画

2022年　NPOの活動を芦屋市内で実施
◆芦屋市「リードあしや」など全国50都市で中高生の海外留学を含めた進路開拓を応援するワークショップを開催
◆市民と芦屋の未来を語る「芦屋SDGsカレッジ」を4回開催（芦屋市・芦屋市教育委員会後援、芦屋川ロータリークラブ協賛）

趣味
ラグビー
中高・大学でプレー

芦屋と私

私は、高校の生徒会活動を通して、芦屋市の市民活動に関わり始めました。

総合公園でのスポーツイベントの開催やサマーカーニバルへの出店をする中で、市民の方々が芦屋を愛する気持ちをひしひしと感じました。これこそが、私が市民中心のまちづくりに興味を抱き、活動を始めた原点です。

大学在学中には世界中の街を訪れ、世界の研究者や議員と議論を重ねながら、理想の都市づくりを学びました。

22歳のときには私の原点である芦屋に帰り、芦屋市役所の政策推進課で3ヶ月間インターンシップを経験。芦屋市の仕組みを学び、芦屋市政を志しました。

その後、奥池を拠点に環境学の研究をしたり、卒業後には芦屋市の環境の魅力について市民の方々と学ぶイベントを開催したりする中で、芦屋市がさらに好きになりました。芦屋市の魅力と歴史を守り続けるため、だんじり保存会でも活動しています。

■サマーカーニバル

■芦屋のだんじりに参加

■芦屋市に関する研究発表（ハーバード大学）

■芦屋SDGsカレッジ

NPO法人「留学フェローシップ」の理事長として、7年間経営してきました。

国や地方自治体、企業、学校と協働しながら、より良い社会を創るために活動

NPO法人留学フェローシップでは、主体的に学びをデザインし続ける力を育み、世界の課題に向き合う若者を支援してきました。

塾ではないNPOでの経営にこだわったのは、家庭環境によらず夢を追う後輩を応援したかったからです。高校生の負担を抑えながらも最高のプログラムを提供すべく、2億円以上を集め、文部科学省や米国大使館、全国の教育委員会や自治体を動かしながら事業を運営してまいりました。

特に、海外経験のない地方の公立高校の生徒の支援に注力し、全国24都道府県・30カ所以上で延べ1万人以上の生徒を対象に、キャリア教育プログラムを開催しました。夏の長期プログラムの卒業生は600名を超え、世界中の大学に羽ばたいています。

2017年からは若者がまちづくりに携わるプログラムを開始。滋賀県湖南市等から事業委託を受け、地元のまちづくり協議会とも協働して若者が市政に関わる仕組みを作りました。

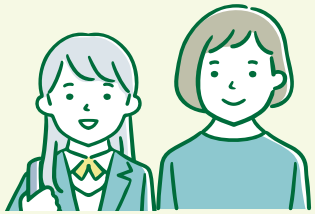
これらの経験を芦屋市に活かそうと、2022年からは持続可能なまちづくりを市民と学ぶ「芦屋SDGsカレッジ」を4回開催しています。

リーダーとして私が最も重視していたのは、参加したスタッフと生徒の誰もが主体的に、前向きに学べる環境づくりでした。生まれ育った環境が違う多様な人が集まるからこそ、誰もが活躍できる組織作りを目指しました。一人ひとりと対話を重ね、柔軟に組織を変えながら参加者の主体性を引き出すやり方で組織を率いたからこそ、結果を残すことができました。

豊富な経験が評価され、自治体や民間企業とも協働

これらの豊富な経験を評価いただき、自治体や民間企業と有識者の立場で協働してきました。ライフイズテック株式会社では、経済産業省「未来の教室」実証事業、AI・データサイエンスの教材開発に従事しました。長野県教育委員会では県立高校「未来の学校」アドバイザーとして、現場の先生と一緒に高校の国際的な教育プログラム開発を4年間行いました。

また、公文教育研究会では学習者アドバイザーとして、全国の教室と本社を行き来しながら、子どもたちがより主体的に学習できる支援を行いました。



高島さんの魅力

鈴木さん（茶屋之町在住）

私の娘は、高校生の時に高島りょうすけさんが主催する留学支援プログラムに参加しました。その頃娘は、進学に迷いを感じており、選択肢の一つとして留学を考えていました。

高島さんと彼が率いる先輩は、悩みを抱える生徒たちに寄り添い、声をかけ続けてくださいました。

高島さんが作ったNPO法人は、社会の課題解決のために様々な企画を提供して、参加者を誰一人取り残しませんでした。

7年間、NPO法人の組織運営に情熱を注ぎ続けた高島さんの力が芦屋市の未来に活かされることを期待します。

高島が芦屋にこだわる理由

私は、ハーバード大学在学中、3年間休学し、世界中のまちづくりを現場で学んできました。ヨーロッパからアメリカ、アジアと様々な都市を回る中で、確信したことがあります。それは芦屋には**「世界トップクラスの魅力と可能性がある」**ということです。

大好きな芦屋市を外から見たからこそ、気づいた芦屋の魅力。

ひとつは、自然あふれる豊かな住環境です。山、川、海、松林に広い空。国立公園へ10分で行ける10万人都市は世界でもなかなかありません。

そして、この環境が守られているのは芦屋市民の皆さまのお力のおかげです。道端の花壇や街路樹に手をかけ、桜や落ち葉の季節には毎朝道を掃いていらっしゃる、市民お一人おひとりの力は、世界中どこにも負けない芦屋市最大の魅力です。

高島が芦屋に感じる危機

「最近、芦屋の元気がない。」

こんな声、聞いたことありませんか？
確かに最近、若い世代を街で見かけることが減りました。

だんじりや地域活動に参加していると、
多くの市民の方々からも同じような声を耳にしました。

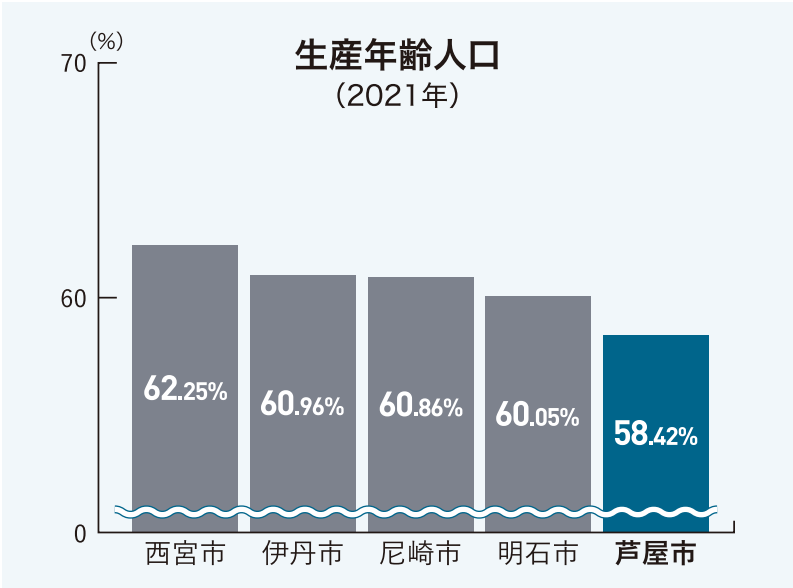
「明らかに子どもの数が減ったよね……」
「商店街が最近すっかり寂しくなってしまった」
「近所の30代の人がみんな市外に出ていった」

大好きな、世界トップクラスの魅力と可能性がある芦屋は、
いつしか元気がない街になってしまっていました。
これはどういうことなのか。実際に市の統計を見ると、芦屋の現状は驚くべき状態でした。

まちの支え手が急激に減少している芦屋

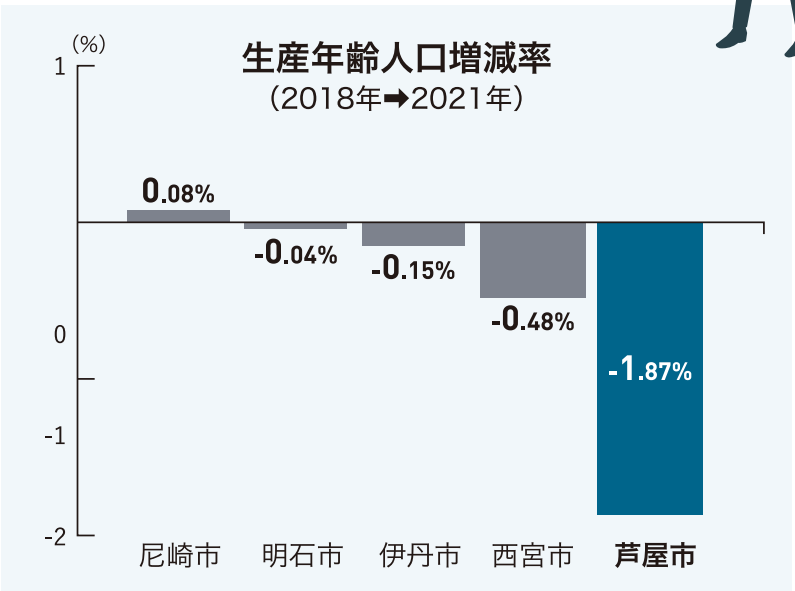
まちを支える世代が、阪神間で最も少ないのが芦屋です。さらに、減るスピードが最も早いのも芦屋です。

まちの「支え手」が足りません。



出典：「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」(2021)

まちの「支え手」は急激に減少しています。



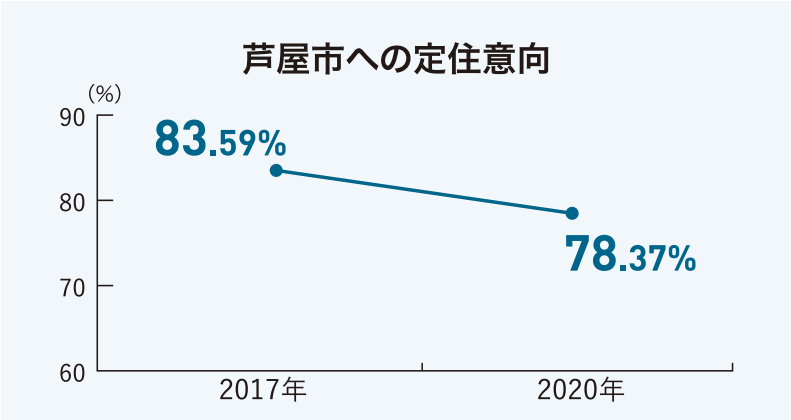
出典：「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」(2018・2021)

※生産年齢人口(15歳～64歳の人口)

阪神間で出生率最下位、高齢化率はトップ

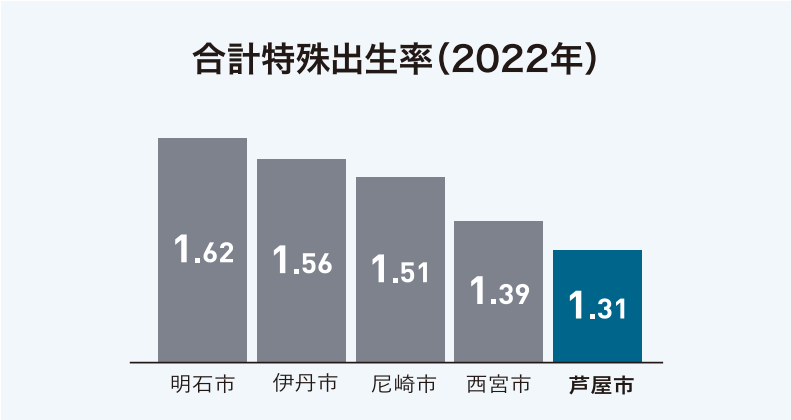
子どもの数を考える上で重要な指標である30-40代への市民アンケートを見ると、
芦屋市に住み続けたいと答える人が減少しています。
同じアンケートで30代の市民が今後特に力を入れて取り組むべきだと回答しているのが「子育て環境の充実」です。
また他の都市と比べても、阪神間で芦屋市の出生率は最下位で、高齢化率もトップです。

30-40代の芦屋に住み続けたい人が減少しています。



出典：「芦屋のまちづくりについての市民アンケート調査結果報告書」
芦屋市（2017・2020）

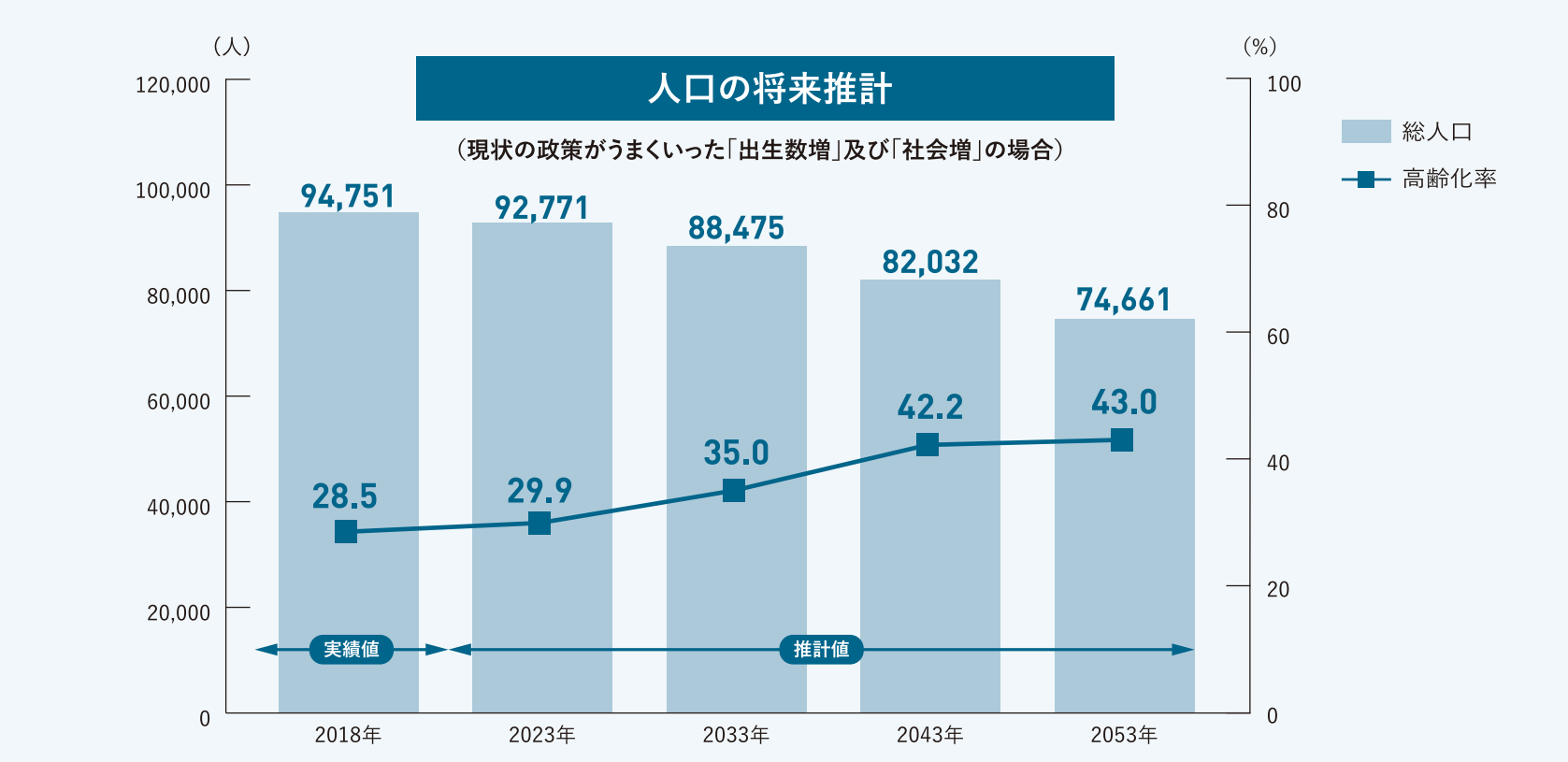
子どもが産みにくいまち、芦屋です。



出典：「令和2年保健統計年報 人口動態統計」兵庫県（2022）

30年後の芦屋の姿

これらの状況が続くと、現状の政策がうまくいったとしても30年後には芦屋市の人口は75,000人を下回り、高齢化率も40%を超える予測となっています。



出典：改定 芦屋市人口ビジョン（令和3年9月）

財政力は西日本一番!

子ども向けの政策が不十分なのは、財政が厳しいからだとよく言われます。
しかし実は、芦屋の財政のポテンシャルは、西日本で一番です。

芦屋市は、西日本で唯一の不交付団体の市です。

不交付団体とは? 税収が多く、国から「地方交付税」の支援を受けていない自立した自治体のことです。他の多くの市は、税収が不足する分を国から支援を受け、市政を行っています。

芦屋の財政

芦屋市の財政は豊かですが、できれば、もっと市民サービスにお金を使っていただきたいと思います。もっと豊かな生活をしたいわけではありません。黒字を手放しに素晴らしいといっていいのか、疑問です。

芦屋市の財政は、毎年度の決算を見ると歳入が歳出を数億円上回っており、特に2021年度は、35億円もの実質黒字となっています。しかし、芦屋市では若い世代の減少や介護人材不足など、まだまだ多くの課題が残っています。つまり、市が対処すべき課題に十分手を打てていないから、お金が余っているんです。財政が比較的恵まれている今のうちに、将来に向けて本質的な課題解決に予算を使います。

しかし芦屋は、
震災でだいぶ借金を持っていますよ?

そもそも、芦屋市が借金をしているのは、道路・公園・学校などの建設のためです。これらは今の世代だけではなく、将来にわたって市民生活に資する事業です。だからこそ、未来世代にも均等に費用を負担していただくために分割払いをしているのです。もちろん借金はまだありますが、期限通り返済するものを加味しても、芦屋市はまだ黒字です。そのため私は、市債の返済と並行して市民の皆さまの課題解決に取り組みたいです。

高島りょうすけと共に新しい芦屋へ

芦屋はこんなに魅力と可能性があるんです。
でも深刻な課題が山積みです。
今の芦屋の状況は「もったいない」。

まちづくりの主役は芦屋市民のあなたです。
だから芦屋を変えられるのは、**あなただけ**なんです。

だから、高島りょうすけは、
強いリーダーシップと対話の姿勢で
芦屋の可能性を引き出します。

あなたの声を市政に活かすため、
あなたの声を聴き続けます。

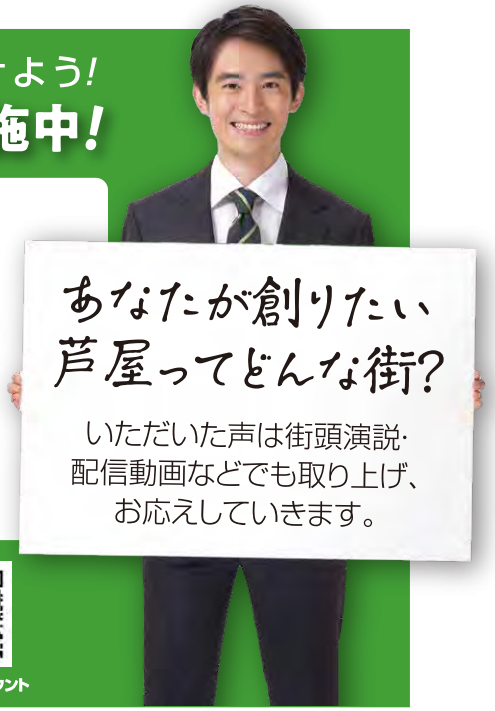
私は、「対話」を掲げ、これまで活動を行ってまいりました。

特に、毎週土日に行った対話集会では、芦屋市内13すべての集会所と芦屋交流センターを回り、
延べ300を超える市民の方々にご参加いただきました。
その他にも、ときにはイベントで、ときにはご自宅で、ときにはインターネット上で
これまで1000を超える芦屋の市民の方々の声を頂いてまいりました。

あなたが主役!

あなたの声を**高島りょうすけ**さんに届けよう!
みんなで創る声プロジェクト実施中!

こちらのスペースにご記入いただき、お気軽にご送信ください。



FAX:050-3131-0640

LINE入力➡

LINE 公式アカウント

※いただいた声や個人情報は事務所で厳重に管理し、目的以外一切使用いたしません。

次のページでは対話の様子をご紹介いたします。

市内各地での対話の様子

次ページからは、
皆さまが寄せてくださった声をもとに、
まとめた政策をご紹介します。

実際に対話集会をすべての集会所で行い、ご自宅や街頭でもお声を聴き続け、私は確信したことがあります。
芦屋市の市民力は、やっぱりすごいんです。
こんなにも芦屋のことを考え、芦屋のためならと一肌脱いでくださる方がこんなにもいらっしゃる。
芦屋の皆さまとなら、世界一住み続けたい「国際文化住宅都市・芦屋」をともに創れると確信しました。
ここからは、そのための具体策を紹介します。

先輩世代と一緒に創る……p.18〜p.21
現役世代と一緒に創る……p.22〜p.25
未来世代と一緒に創る……p.26〜p.29
JR駅南側再開発について……p.30〜p.31
対話中心のまちづくり……p.32

先輩世代の皆さまと一緒に創るのは、「何歳になっても生き生きと活躍できる芦屋」です。

芦屋市では、現在支援・介護が必要な方が急増しています

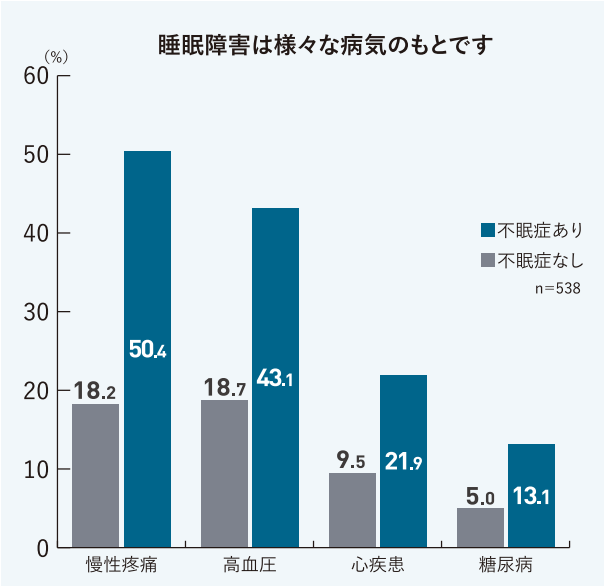
介護や生活支援の充実は市役所の重要な役割です。しかし、支援や介護が必要になる前に手を打つべきです。
健康寿命を延ばすため、以下の政策に取り組みます。

1 集会所・公園を集まり繋がる場へ

孤独を予防するため、地域コミュニティの拠点である集会所・公園を守り、より多くの市民の皆さまに使っていただけるよう整備します。私はすべての集会所をまわり、対話集会を開いたからこそ、いかに集会所が地域にとって必要不可欠か実感しました。春日集会所はもちろん、他の集会所もさらに利用しやすい環境を整えます。また、芦屋市民会館内の「キッチンカフェなりひら」は5月末で閉鎖が決まっています。地域の皆さまの憩いの場を持続可能な形で残せるような方法を検討します。

2 睡眠の質を上げる検診（睡眠時無呼吸症候群対策）

予防医療を進めるため、睡眠検診を導入します。不眠は、認知症や高血圧、心疾患などの様々な病気のもとになっています。よく眠り、日中は元気に活躍できる環境を整えます。



この横断的、かつ後ろ向き研究は、772名の男女（20-98歳）の地域社会に基づいて、自己報告測定を用いて行った。
Talor DJ et al sleep. 2007;30(2):213-218, より作図　一部を表示

高島が取り組みたいこと

先輩世代編

**Q 現在、親の介護をしています。
すでに介護を受けている世代にはどんな支援を考えていますか。**

高島

団塊の世代が75歳以上になる2025年以降は、介護の需要は更に増え、芦屋市でも高齢の方による介護が増えると予想されます。同時に、在宅で介護を受けたいというニーズも高まっています。住み慣れた地域で老後を暮らすことができるよう、訪問介護サービスを充実します。そのために、介護士のさらなる待遇改善に努めます。芦屋市が先進的に進めてきた重層的支援体制整備事業をもとに、地域包括ケアシステムを確立します。

**Q 高齢者として現役ではないかのように扱われるのは嫌です。
私にも芦屋市のために何かできないでしょうか。**

高島

芦屋の未来づくりをぜひ一緒に進めさせてください！私は「先輩世代ベンチャー」を支援します。ご経験とご知見が豊かな先輩世代の皆さまにこそ、芦屋市の課題解決に一緒に取り組んでいただきたいからです。人生100年時代です。ボランティアとしてだけではなく、芦屋を良くするための社会起業も支援し、いつまでも生き生きと活躍していただける芦屋を創ります。

高島が取り組みたいこと

Q 坂道が多い山手では、南北の移動が難しく、高齢者が免許を返納したくてもできません。バスの本数を増やしてもらえませんか。

高島

既存のバスの増便やコミュニティバスの導入ではなく、乗り合い型のAIデマンドタクシーの試験的導入を検討します。

1 自宅まで迎えに来てくれるので便利

タクシーと同様、自分で乗車場所と降車場所を選ぶことができます。他の乗客との乗り合い型のため、普通のタクシーよりは時間はかかりますが、その分安い運賃で利用することができます。

2 経済的に持続可能

バスの本数が少ないのには採算が合わないなどの理由があるはずです。だからこそ、バスよりも小さい規模のタクシーを、乗客の需要に応じて走らせることで、持続可能な形で公共交通を充実させます。

現在、東京都豊島区や大阪府北区など、都市部での実証実験も始まっている、実現可能な案です。新たな公共交通の導入を検討する上で、まずは地域住民、民間企業の方々と議論する場である地域公共交通会議を設置します。

Q 芦屋市は28年前に震災で大きな被害を受けました。南海トラフ地震が起こると言われている中、芦屋の防災は大丈夫なのでしょうか。

高島

ハード面のインフラの更新はもちろん重要です。道路や橋などだけではなく、地域コミュニティを防災の核とするため、集会所などの集まれる場所の整備を進めます。再生可能エネルギーと蓄電池を整備し、災害時にも安定的に電力が供給できる体制を整えます。
それに加え、ソフト面の整備、すなわち地区防災計画を地域ごとに作成することが重要です。
また、市民の方々が参加可能な防災訓練を充実させます。初動は市民の方々で担う必要があります。災害時に素早く対応可能な地元の民間事業者との連携を進めます。

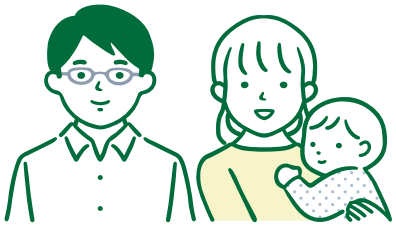
異世代交流 健康づくり

1 スポーツ

スポーツを通じていつまでも健康で活躍できる環境をつくります。
また、総合型地域スポーツクラブと連携し、
中学部活動の地域移行を進めます。

2 花と緑

地域コミュニティの活性化のため、
花と緑があふれるまちづくりを市民主体で実現するための
オープンガーデンをはじめとする取り組みを支援します。



現役世代の皆さまと一緒に創るのは、「圧倒的に子育てしやすい芦屋」です。

芦屋市の出生率は、近隣市と比べても低迷しています

これを解決するために、以下の2点に取り組みます。

1 経済的な支援

18歳までの医療費無償化を所得制限無しで行います。予算規模はおよそ2.5億円であり、単年度の実質黒字が毎年5億円ほどある現状では十分に賄えると考えます。未来の芦屋市を担うすべての子どもたちの健全な成長を、芦屋市のみんなで支えるための経済的支援です。

2 延長保育や病児保育の充実

市外での就労が多く帰宅時間が遅くなる芦屋市では、延長保育のニーズが大きいため、優先して整備します。市のアンケート(2019)では、30-60代のすべての世代で「子育てと仕事の両立を可能にする環境が整っている」に対して不満が多い状況です。

高島が取り組みたいこと

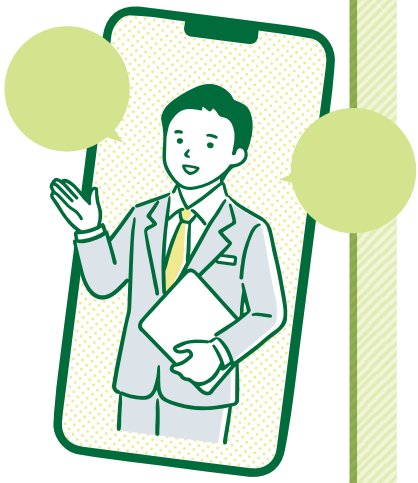
現役世代編

Q 最近、あるサービスの申請手続きのために市役所を訪れました。月曜日から金曜日の日中しか空いていないので、仕事を休んで行かなければならず、日程調整が大変です。もっと簡単に申請できないのでしょうか。

高島

私は市役所が既に持っている市民の皆さまのデータを活かし、あなたに最適なサービスをカスタムメードで届ける行政を目指します。例えば、新しい子育て支援や介護支援の仕組みができたら、対象者の方のスマホにお知らせが届き、ワンタッチで申請が完了するような世界です。まずは電子申請の拡充から始めます。

実際フィンランドでは、スマートフォンにプッシュ型で最適な公共サービスを届ける仕組みが実装されつつあります。この仕組みが完成すると、あなたはもう市役所に行く必要はありません。もちろん、市民の方々のデータを活用するのは本人の同意を得た場合に限ります。



あなたに最適なサービスを届ける市役所。役所に出向く時間を減らします！

高島が取り組みたいこと

Q ゴミ収集時、カラスや野生動物によってゴミが荒らされているのをよく目にします。どうにかなりませんか。

高島

希望者に対してはできるだけ戸別回収ができるよう検討します。例えばゴミ箱を用意いただければ、ゴミ袋が外から見えなくなることで、カラスによるゴミの散乱を防止できます。カラス対策のみならず、ゴミ出しの負担軽減にも繋がります。ゴミ収集車が通れない道については引き続き集合回収をせざるを得ませんので、場所ごとに対策を講じます。

Q 芦屋市はゴミ処理施設の更新を単独で検討していると聞きました。西宮市と一緒に更新することで費用負担が減るという話はどうなったのでしょうか

高島

西宮市などの近隣自治体との協働を再度目指します。今後ごみの量は人口減とリサイクル等の加速により減少します。この状況で芦屋市が単独で処理施設を更新すると、現在のごみの量を処理する大きな施設を維持する必要が生じます。現状でも、芦屋市の施設は最大処理容量を遥かに下回る量のごみしか処理していません。近隣市との共同でのごみ処理は、費用負担を抑えられるだけでなく、ごみ焼却に伴う発電量の増加によって売電収入も見込むことができます。CO_2の排出量の削減も可能です。私が大学で学んだ環境工学の知見と人脈を活かし、過去の経緯を担当者から聞きながら、未来志向のごみ処理を実現します。

Q 最近窃盗団のニュースが怖いです。安全安心を守るような取り組みはできませんか。

高島

防犯カメラの設置を拡充します。兵庫県伊丹市では、2015年から2016年に1000台の安全・安心見守りカメラを整備し、街頭犯罪認知件数が4割以上も減少しました。芦屋市でも自転車盗難が2020年には34件、2021年は75件と急増しています。窃盗団のニュースもあることから、安全安心を見守る体制の整備は急務です。

犯罪の捜査に使用するなど防犯のためのみならず、子どもや認知症のお年寄りの方々の見守りにも使用可能です。例えば、認知症のお年寄りが外に出てしまった場合にも、居場所がすぐに分かるような仕組みです。

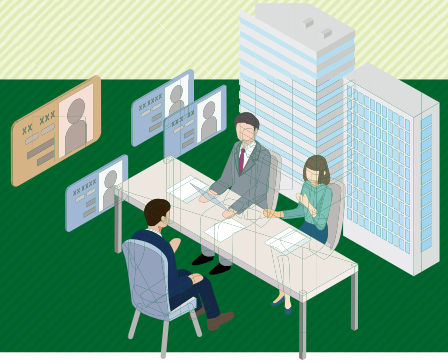
その他の取り組み

1 誰ひとり取り残さない社会の実現

それぞれの背景を持った人が自分らしく生きられる社会を目指します。まずは市役所の後援イベント基準を見直し、「登壇者女性割合などジェンダーバランスが均等であること」を含めます。

2 起業家の支援

やる気と才能にあふれた起業家を支援し、芦屋市からより良い社会を一緒に創ります。若い世代への起業家教育も進めます。



未来世代の皆さまと一緒に創るのは、「最高の学びができる芦屋」です。

公立小中学校の教育の仕組みを変え、一人ひとりにあった教育を実現します

現状の一方通行の授業は、残念ながら昭和のやり方のままです。社会がこんなに変わっているのだから、学校の授業の方法も変えましょう。ついていけない子には難しすぎる、余裕のある子には簡単すぎる授業を全員に聞かせている授業だと、学びのモチベーションも湧きません。特に、以下の2点を重視します。

1 「ちょうどの学習」を提供

AIドリル等のICT技術を活用し、生徒の理解度や個性に応じて最適化した学習を実現します。芦屋市では2021年に公立の小中学校生全員にiPadを配備しました。しかし、担当の先生によってiPadを使いこなせていない学級もあるのが現状です。これは先生個人の責任ではなく、iPadを使いこなす環境づくりができていないことが原因です。

2 教員の働き方改革

学校の先生が忙しすぎることも、一人ひとりにあった教育ができない根本の原因です。学校の先生が先生にしかできない業務内容に集中できる環境を作ります。例えば、地域人材や専門家を学校に配置することによって、中学部活動の地域移行や教員の事務作業の軽減を実現します。学校の先生に余裕が生まれると、それぞれの生徒の興味関心にあった声掛けによる学びのモチベーションの個別最適化も見込まれます。

芦屋市はインクルーシブ教育を掲げ、これまで教育を行ってきました。一人ひとりの特性に向きあう個別最適化の教育を行うことで、初めて誰ひとり取り残さない教育が実現できると確信しています。

高島が取り組みたいこと

未来世代編

Q AIの進化によって、将来半分の職業が消えると聞きました。子どもにどんな教育を受けさせれば良いか不安です

高島

一人ひとりの興味関心を起点にした、STEAM教育の導入を目指します。自分の興味関心に基づき、探究する（知る）力と創造する（創る）力を育てます。与えられた科目を闇雲に学ぶのではなく、「なぜ学ぶのか」を納得し、学ぶからこそ、学習意欲が高まります。具体的なスキルでは、英語とプログラミング教育を充実します。子どもたちが仕事をする頃には、いずれも必要不可欠な能力です。例えば小学校の英語教育は、時差の小さい海外の学校とオンラインで合同授業をするなど、英語で話す場を多く作ります。また多くの生徒が留学できるような奨学金制度を、民間の寄付等を活かし整備します。自信を持ってふるさとを世界に発信できるように、芦屋や日本文化について深く学べる機会も提供します。　STEAM教育……科学・技術・工学・芸術・数学の分野横断型教育

経済産業省や文部科学省、教育委員会と先進的な学校現場でのカリキュラム作成に携わってきた高島りょうすけだからこそできる改革です。

Q 学校のトイレが汚くて使いたくありません。なんとかしてください。

トイレは学校生活の基本です。
必ずきれいにします。きれいなまま使う方法を一緒に考えましょう！

高島

高島が取り組みたいこと

Q 若者の声をまちづくりに反映させるために、どのような方策をお考えですか。また、若者の投票率アップを図るために、どのような対策を打ち出しますか。

高島

学校の中と外で2つ、行いたいことがあります。

学校の中

私は生徒と一緒に校則を見直します。学校は一番身近な社会です。だからこそ校則、すなわち社会のルールも自分たちの手で変えていくことができるんだと実感できるような学びの場にしたいと考えています。校則は先生が生徒を縛るものだというイメージが強いかもしれません。しかし、本来はよりよい学校生活、よりよい学校社会を作っていくために、みんなで決めるルールのはずです。先生も生徒も一緒に学校の目指すべき姿を議論し、そのために必要なルールを定めましょう。実際最近、生徒主体で学校のルールを見直す動きが始まっています。大阪の公立中学校や広島の県教委など様々な実例があります。

学校の外

若者を対象にした議論の場をつくります。誰よりも長く芦屋で暮らす未来世代目線で、プロジェクトや政策を提言いただき、行政は実現に向けてサポートします。実際に私が住んでいたボストンや愛知県新城市でも行われています。

その他の取り組み

1 不登校の生徒に対する学びの確保

芦屋市ではここ数年、不登校の生徒数が一気に増えています。特に中学校では7%、クラスに2人以上が不登校です。最大の課題は、多くの不登校の生徒（全国では36%）が誰の支援も受けられていないことです。学校に戻ることだけでなく、サードプレイスの整備やメタバース上でのサポートなど、民間の力を活かして誰ひとり取り残さない学びの場を創ります。

2 持続可能なまちづくり

屋根付き太陽光発電の促進やEV電源の公的施設への導入などにより、カーボンニュートラルを進めます。

私は、代表を務めるNPO法人で滋賀県の湖南市から業務委託を受け、若者の声をまちづくりに反映させる取り組みを行っていました。そこで重視したことは2点です。

1 若者が本当にやりたいと心から思う内容を実施する

若い世代は本当に忙しい。勉強、部活、恋愛、友人関係、家族関係…将来への悩みもあるでしょう。その中で、時間をわざわざ割いてくださるのですから、自分がやりたいことに徹底的にこだわっていただきたい。参加する若者一人ひとりが本当にやりたいことを見出し、実現させ、あくまで行政はそれをサポートする。行政は支える役割だということを徹底します。課題ありきでは若者の心は動きません。あくまでやりたいことベースです。

2 若者を若者扱いしない

世の中に目を向けると、「若者の声を反映させた」と言いたいがための施策に溢れています。とりあえず若者の声を聴いただけ、若者っぽい意見を言ってもらう……それでは、芦屋の未来を考え、真剣に関わりたいと思ってくださっている若い世代に失礼です。若者扱いせず、同じ志を持つ仲間として、一緒に芦屋の未来を創りたいです。

そしてこれこそが、現在全国的にも低迷中の投票率アップにも繋がるのではないかと考えています。
自分の声で、社会が変わるのだという成功体験。これこそが政治・行政への関心に繋がります。
自分の声で、学校が、そして社会が変わる。同世代の声が芦屋をもっと良くする。
芦屋市の未来を担うあなたに、実感していただけるような環境づくりを実現します。

JR駅南側再開発について

再開発は必要です。

現在のJR駅前南側は狭く、バス、タクシー、送迎の一般車で混み合っています。路上駐停車が目立ち、歩行者にとっても危険な状態です。この交通上の課題を解決するために、再開発を行うべきです。しかし、駅前の一等地に高層マンションを建てる現在の計画は、芦屋市ならではの魅力を高める計画とは言えません。国費を含め200億円を費やすには非常にもったいない計画になってしまっています。実際、対話集会でも駅前の再開発には賛成だが、計画には反対だという市民の方々のお声を多く頂戴しました。

この4年間、芦屋市議会でも様々な議論がありました。

市議の方々もそれぞれのお立場から芦屋市の未来を考えて議論をされていたこと、敬意を表します。地権者の方々には長く私権の制限をお願いしていること、そして市民の方々にもいつJRの交通課題は解決するのだろうかと不安に思わせています。これ以上、長々と時間をかけるわけにはいきません。

再開発代替案の担当官を任命して、スピード感をもって進めます。

行政手続きを考えると、管理処分計画まで進んでいる計画であるため、白紙で見直すことは非現実的です。ただ、民間事業者との契約は未完了ですので、建物の見直し等により損害賠償請求をされる状況にはありません。それを考えると、もっと芦屋らしい駅前再開発に見直すことは可能です。

私は、緑があふれ居心地が良く、
歩きたくなるような
芦屋らしい駅前再開発に見直します。

多世代の市民が集う拠点として図書館を整備します。

図書館と言っても本を貸し借りするだけの場ではありません。読み聞かせを通じた親子の交流の場。学生が集中して宿題に取り組める自習室。みんなで地域活動の計画を立てられるカフェ。老若男女誰もが自分の人生を豊かにできる、そんな出会いが待っている場所こそが駅前図書館です。

芦屋市の魅力とは、自然豊かな住環境と、芦屋を愛する市民の力、すなわち地域コミュニティの強さです。

駅前は、芦屋市の魅力を体現する場にしたい。また、まちづくりは、40年以上先を見据えて行う必要があります。自動運転などの技術が進化した40年後にも柔軟に対応できる余裕のある計画が必要です。

駅前の一等地は市民の皆さまのものです。

だからこそ、芦屋の未来をあなたと一緒に創っていく拠点として、駅前をリニューアルします。

これからも、市民の皆さまとの対話を軸にしたまちづくりを進める姿勢を明らかにするため、以下の3つをお約束します。

1. 市民の皆さまとの対話を続ける象徴として、すべての集会所で地域の皆さまとの対話集会を毎年開催します。
2. 行政の施策を市民が提案できる制度を導入します。
3. 若者を対象にした議論の場をつくります。誰よりも長く芦屋で暮らす未来世代目線で、プロジェクトや政策を提言いただき、行政は実現に向けてサポートします。

リーダーに必要な要素

1. 将来を見据えたわかりやすいビジョン
2. 対話し続ける姿勢
3. ビジョンを実現する仲間

私は、前向きで主体的に動く市役所を創ります。行政が積極的に市民の皆さまのもとを訪れ、あなたの声に耳を傾け、最適な解決策やサービスを提案する「動ける市役所」です。
それにはリーダーの明快なビジョン、市民の皆さまとの対話、ビジョンを達成する知恵を持った仲間が必要です。
市役所だけで行政を行う時代は終わりました。課題の現場は市役所の外にあります。だからこそ市役所が受け身でお声を聞くのではなく、能動的にお声を聴きに行く仕組みを創ります。

対話を通じて浮き彫りになった課題を解決するためなら、市内の前例にはこだわりません。
東大とハーバードで培った人脈を活かし、世界中の仲間と「どう解決できるか」を考え、市民の皆さまと果敢に挑戦する、そんな芦屋市を創ります。私は市民の皆さまと市役所の真ん中に立って、誰よりも前向きに走り続けます。
「対話」を通じて、一人ひとりに合った、あなたがより豊かな人生を送れる芦屋市を創ります。

最後まで読んでいただきありがとうございました。
世界で一番住み続けたいと思える芦屋市を、ともに創っていきましょう。

索　引

社会問題

人口減少 …… p.3、p.9、p.10、p.12
出生率の低下 …… p.3、p.11、p.22

子育て

延長保育・病児保育 …… p.22
18歳までの医療費無償化 …… p.22
子育てと仕事の両立 …… p.22

高齢化・医療・介護

健康寿命を延ばす …… p.18
孤独を予防 …… p.18
社会起業も支援 …… p.19
在宅・訪問介護 …… p.18、p.19
重層的支援体制整備事業 …… p.19
地域包括ケアシステム …… p.19
免許返納・交通支援 …… p.20
坂道の移動支援 …… p.20

健康管理

予防医療 …… p.18
睡眠の質向上 …… p.18
認知症予防 …… p.18、p.25
異世代交流 …… p.21

地域コミュニティ

集会所・公園 …… p.18、p.21、p.32
先輩世代ベンチャー …… p.19
ボランティア …… p.19
子育て支援 …… p.23
介護支援 …… p.19、p.23
防犯・見守り・安全安心 …… p.25
ジェンダーバランス …… p.25

公共サービス

ワンタッチ電子申請 …… p.23
カスタムメードで届ける行政 …… p.23
動ける市役所 …… p.33

教育関連

キャリア教育 …… p.6
主体的に学習できる支援 …… p.7
中学部活動の地域移行 …… p.21、p.26
ICT技術 …… p.26
教員の働き方改革 …… p.26

一人ひとりにあった教育 …… p.26
STEAM教育 …… p.27
英語教育・留学 …… p.27
プログラミング教育 …… p.27
学校のトイレ …… p.27
不登校対策・サードプレイスやメタバースの整備 …… p.28
民間の力 …… p.28

財政

財政は恵まれている …… p.3、p.13
予算配分 …… p.13

都市計画・まちづくり関連

芦屋を愛する市民の力 …… p.3、p.8、p.31
市民中心のまちづくり …… p.5
持続可能な公共交通 …… p.20
JR駅南側再開発 …… p.30、p.31

環境・エネルギー関連

持続可能なまちづくり …… p.6、p.28
再生可能エネルギー …… p.21
ゴミ処理施設 …… p.24
CO2排出量削減 …… p.24
カーボンニュートラル …… p.28

防災

南海トラフ地震 …… p.21
地区防災計画 …… p.21
ハード面のインフラ …… p.21
ソフト面の整備 …… p.21
防災訓練 …… p.21

その他

芦屋の豊かな住環境 …… p.3、p.8、p.31
リーダーシップ …… p.14
対話 …… p.14～p.18、p.30、p.32、p.33
東大とハーバードで培った人脈 …… p.24、p.33

takashimaryosuke.jp
基本政策詳細に興味がある方はぜひアクセスを!
▶▶▶ 高島りょうすけ 検索

安心の医療・介護

先進的な世界一の教育

圧倒的な子育て環境

みんなで創る声プロジェクト継続中!

もっと皆さまの声を聞くために、高島が皆さまの元へ駆けつけます!

「高島に来てほしい」「高島を呼びたい」といった機会がございましたら、
下記までお気軽にご連絡ください!お待ちしております。

高島へ直接メッセージが送れます!

LINE 公式アカウント

お友だち登録後、メッセージが
送れる場所はここから!

本冊子へのご意見・ご感想がありましたら、ぜひお寄せください。

高島りょうすけ後援会事務所
〒659-0092 芦屋市大原町11−24 ラポルテ北館101
TEL:070-4490-6820 メール:info@takashimaryosuke.jp